

なきごえ



1977

12

大阪市
天王寺動物園協会

日中友好「大阪の翼」動物交換に参加して



橋本 一郎

私達天王寺動物園から参加の2名は、日中友好大阪の翼第1班に所属し、上海市西郊公園へチンパンジーを無事とどける事が使命で派遣されました。

10月24日、動物園では早朝より檻の移し換えや給餌等の出発準備で大変でした。10時55分発の飛行機に同乗出来る様にする為には、動物検疫所や空港税関と事前打合せは勿論、日本航空並びに通関業者との連携を密にしながら、1ヶ月前から準備を進めて来ました。生きものにはアクシデントは付きものです。特に野生動物に於ては、家畜や単なる荷物として処理出来ません。機内では空気の酸素量や温度調節、糞便放尿に対する対策等、色々の角度から検討を加えました。チンパンジーが子供の為、精神的、肉体的苦痛を出来るだけ少なくし、輸送檻の中での拘束時間を短くする為の対策をも講じました。以上担当者の協力で、私達が塔乗する前に園長より、動物の通関業務が無事完了した旨の連絡を受けホッとしました。

2時間半の空の旅でもう中国の本土です。128名の団員は、共産圏へ来たという緊張した面持で誰も口をきく者はおりません。遠くの方でチンパンジーが先に移動されるのがチラリと見えました。

我々は聴き馴れない中国語の飛びかう中で、入国通関業務を受けました。私と大野君は、他の団員と分かれ、動物交換記念事業の準備の為、チンパンジーと共に西郊公園に行くことになりました。幸い通訳に親切な鳥思成さんが、付いてくれました。又、49年来日された飼育係の顧金根さんが親しそうに手をさしのべて迎えてくれました。動物園では趙沛

園長の鄭重なもてなしを受け、記念行事の準備を進めてくれました。記念植樹並びに動物交換は3時から実施され、日本側からはチンパンジーの雄2才半と雌3才を、中国側からは、ベニジュケイ4羽2番【ベニジュケイはパンダで知られている、中国四川省の山間に住む雉類の一種で、中国名は『紅腹角雉』と云われ、頸部から腹部にかけて紅色の美しい大型の鳥であります】の珍鳥を、大阪市民へと戴いて参りました。動物園の見学も少ない時間ながら、精一杯見学しました。西郊公園は、70万㎡の広大な動物公園で、天王寺動物園の約7倍、公園全体に動物舎が散在し、適当な公園的スペースを持った広場や本立があつて、人々が思い思いに散策したり、休憩し、狭い大阪の事情と異にするものであります。又、園の中央部には1万㎡位の池があり、ペリカンが自然放飼式で繁殖に成功しております。動物は200種余り、2千点程飼育しているとのことです。特に鳥類の種類は多く、哺乳類は少ない様子です。中国では人と動物のかかわりあいを大切に、担当者も調教訓練は熱心です。1974年大阪から送ったアシカのボール遊びや象のラッパ吹き等が入園者を喜ばせていました。又、今度のチンパンジーに対しても訓練し、大阪と上海の人民の人気者に育てたいと園長は云っておられました。そのための調教室と運動場を一つにしたレンガ造りの立派なチンパンジー舎900㎡が来年5月完成予定とのことです。中国側では動物の交流によって両市民の交りを盛んにしていきたいという熱意がうかがえます。

大阪市の近藤団長も来年も動物交換や人の交流の推進を約されました。動物の世界に国境はなく、又、言語はお互いに異なっても動物に対する人の心は一つであるという私自身貴重な体験をして参りました。又、中国と日本は遠い様で実は近くであったと云うことも知りました。(動物園：飼育課長)

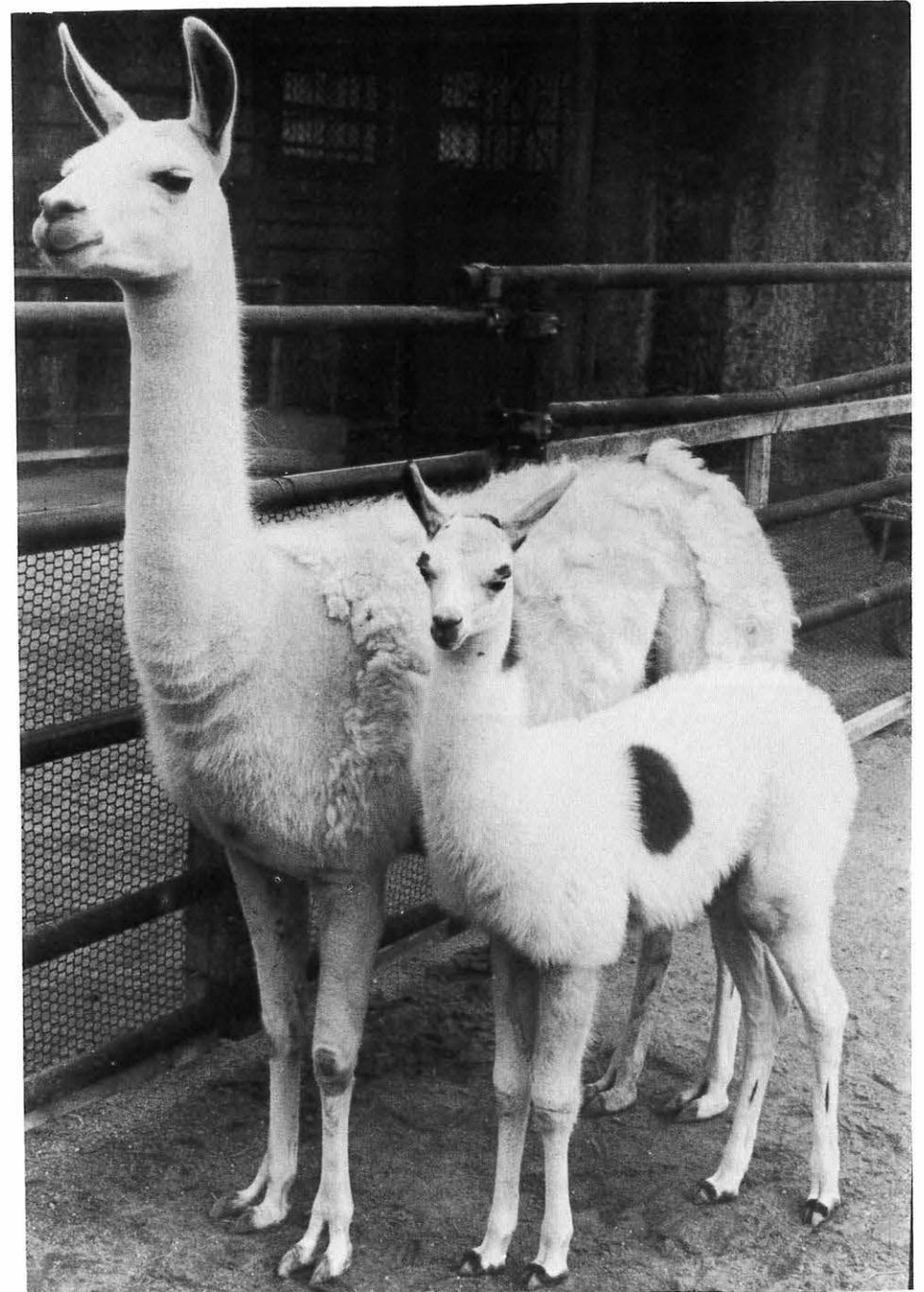
なきごえ12月号もくじ

日中友好「大阪の翼」動物交換に参加して	2
“ラマの親子”	3
動物園グラフ	4・5
サヨナラ大介君、十月ちゃん	6・7・8・9・10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ミドリニシキヘビ”

ニューギニア、オーストラリア北部に分布する樹上性のヘビで、体を枝にふり分けたような特有な姿勢をとります。(撮影：宮下 実)



“ラマの親子”

11月3日にラマの赤ちゃんが誕生しました。母親のホワイティはこれが2度目の出産で、じょうずに子を育てています。今度の赤ちゃんはメスでメリーと名付けられ、発育も順調です。(撮影：宮下 実)

動物園グラフ “今年の主な誕生動物”

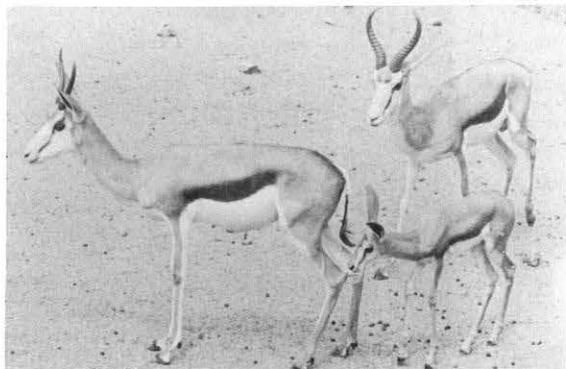
今年最後のグラフなので1年をふり返って、今年の主な誕生動物をグラフで特集してみました。
(撮影：宮下 実)



3月30日誕生 — フタコブラクダ
母親のサクラはこれが2度目の出産。赤ちゃんはメスでミルと名付けられました。



ふ化日数 32日、31日。
昨年の一羽に続き、二年連続のオメデタです。
6月28日、30日誕生 — タンチョウ



7月16日誕生 — スプリングボック
ここ4、5年、毎年誕生しており、順調な繁殖ぶりです。



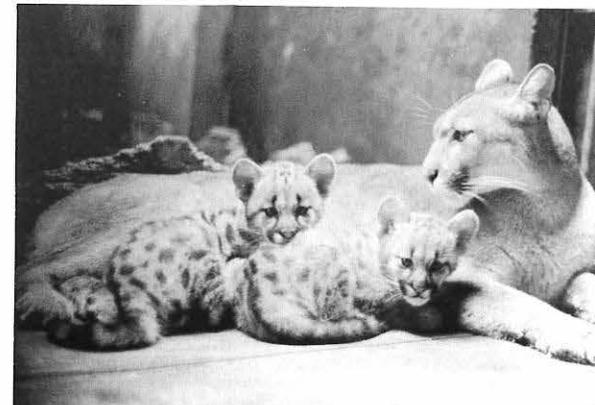
なりました。
今年も2頭も誕生し、計8頭と非常ににぎやかに
1月、5月誕生 — アカカンガル



8月2日誕生 — モウコレイヨウ
昭和49年北京動物園から贈られたモウコレイヨウ夫婦の初めての子です。世界でも収容下では初めてと思われま。



ため人工哺育にしました。
昨年にも続き、今年も母親が世話をしない
8月9日誕生 — フサオマキザル



8月21日誕生 — ピューマ
母親は2度目のお産、子の発育は順調です。

3月10日誕生 — ケープペンギン
手前がヒナで、当園では初めての誕生です。



10・11月の動物園日記

- 10/30. エチオピアライオンの子が右眼を負傷したので治療しました。
31. ゴリラのオス、ゴロが下痢をしているので薬を飲ませました。
11/2. 中国の上海動物園からベニジュケイが2番い送られてきました。
人工哺乳中のフサオマキザルの仔、コッチは順調に離乳が進んでいます。

- 11/3. ラマの仔が去年に続いて生まれました。今年度もメスの仔でした。
4. ヒョウが交尾しました。
5. ペンギン達を冷房ペンギン舎から外のペンギン舎に移しました。
6. 今年もオオミズナギドリが保護されてきました。
8. ブラックバックのオスが肺膿瘍のため死亡しました。
9. マレーグマが1頭の仔を産みました。
アカカンガルーの仔が母親の袋から放り出

されてしまいましたので引き取って人工哺育にしました。

11. アメリカオシのメスが死亡しました。
12. ケナガモルモットが元気を失くしているようなので薬を飲ませました。
13. リスザルが風邪気味なので暖かくしてやりました。
14. エミューのおじいさんが右眼の下をケガしているため治療しました。
16. ボランティアーズの会報「おおずらぼら」

第1号を発行しました。

17. マレーグマの仔は順調に大きくなっています。
20. バイサオリックスのオスが元気を失くしているため薬を飲ませました。
クロサイのメス、サッチャンが軟便なので薬を飲ませました。
21. クロサイのサッチャンとサイ王を同居させました。
23. ウサギが仲間咬まれてケガをしたので治療してあげました。

サヨナラ、^{だいすけ}大介君、^{かんな}十月ちゃん

大野尊信

去る10月24日、大阪空港を10時55分に発ってわずか2時間余りで中華人民共和国の上海空港に到着。質素な空港ではありますが、あくまでも広い景色にさすが大陸についたという感じがありました。橋本飼育課長と私はこのたびの上海—大阪姉妹都市提携3周年を記念しての動物交換を行うため、チンパンジーの大介君と十月ちゃんを連れて日中友好「大阪の翼」団員128余名と共に中国を訪れて参りました。今回動物交換を行う西郊公園はもとより北京動物園も訪れる機会があり、珍しい動物をフィルムにおさめ、動物園関係者との交流を行ってまいりました。

西郊公園は、その日のメインセレモニーを行うため、到着後私達2名はただちにチンパンジーをつれてマイクロバスで西郊公園に向いました。空港をでて並木道を左右に農村風景をみながら15分ほど走ると到着。上海市郊外にあると思われまます。さっそく趙沛園長の歓迎をうけ、このたびの労をねぎらわれました。大介、十月も狭い輸送箱でよごされてはいましたが無事につきました。早速チンパンジーをどうするか相談をし、私はとりあえず新居に移し、体のよごれなどをとって落ちつかせてあげたかったのですが、セレモニーの会場が新居から遠いことや時間の関係でそのままにしておくことにしました。そこで簡単に外から手や足をふいてやりました。又、チンパンジーについての説明を行い、大介の方はすぐにでもなれるからなんの心配もないが、十月の方は少しおくびょうなので、時間をかけてくれる様にお願ひしました。そして、この2頭の世話をしてくれると思われるおぼさんの飼育係の人もこられていて、何かとお世話になりましたが、西郊公園においても現在成獣のチンパンジーもおり、経験もあるので安心して下さいとのことでした。その他食物の質問を受け種類、量などの説明をしました。

その間、彼らも落ち着いて来たようで箱をゆすったり、手を出したりしています。おぼさんにたのんで水を少し飲ませてあげました。少し一段落したので園長から西郊公園についての説明を受けました。

総面積70万㎡で200種、2000点の動物がいて、特に中国特産の動物を飼育することに重点をおいているとのこと。さすがに広く、天王寺動物園の7倍もあるわけです。セレモニーまで若干の時間があつたので以前に大阪にこられたことのある顧さんと朱さんの案内で園内を観ることにしました。公室をでると一面に芝生を敷きつめた広場で所々に樹木が繁り、子供達のグループや若いカップル等が思い思いくつろいでいます。その広さも天王寺動物園の南園より広いのではないかと思う程です。そんな所を歩いてゆくと正面に大きな看板があり、中国珍貴動物を紹介してありますが数が多く数えきれません。

なお、この様な動物にはランクづけがしてあつてパンダ、^{キンシコウ}金絲猴などが第一級で27種あるそうです。

ようやく建物が見え、私は最初これが動物園の入口かと思いましたが売店でパンフレットやフィルム若干のおかしなどを売っている様です。ようやく動物舎があり、金魚館の前では記念写真屋がいてよく繁盛している様です。少し行くとダチョウ、エミュー、ひくいどりや居てどれも広い放飼場をもち、奥行きも深くとつてあります。エミューの所にはたばこのスイガラが2~3本ほりこまれていて、けっこうイタズラする人もいるのだなど変な感心をしました。ひくいどりは一羽ずつ分けてあるので、たずねるとやはり同居さすのはむずかしいとのことでした。鶉舎には今回交換したベニジュケイを初め、黄胸ジュケイ、白カケイ、灰色コクジャク等がいました。近くに大鷄といわれている野ガンの様なのがいて、これは美しい鳥でした。園の中央部には天鵬湖と呼ばれる大きな池があり、島にはペリカンが居て繁殖に成功しているそうです。

池を渡る橋の左側にフンボルトペンギン舎があり、これは3年前当園から送られたものです。橋を渡ると、つる、猛禽、小鳥などの建物があり、丹頂は沢山いますし、尾黒づる等がいてコウノトリは6羽いました。猛禽舎はそれほど大きくはありませんが、恵南省にいるという珍しいはげわしの一種が1羽いました。

鳴禽舎はイカル、コウライウグイスなどが雑居して多数いますし、飼育のむずかしいセキレイが数種50羽以上いたのにはおどろきました。どれも籠飼いでなく追い込み式です。又、天井が高いのが利点だと思ひます。少しはなれた所にもう一つ鳴禽舎があり、各々オオルリ、^{キイロチョウ}八色鳥、赤しょうびん、カワセミ等が数多く飼われていてびっくりしました。小獣舎にははくびしん、雲びょうなどが居ましたが、これはあまり広くないようです。狼舎には大阪に来た黒オオカミが2頭居ます。もう少しいけばパンダ舎があるのですが時間がなく、金絲候をみてもう一度見てセレモニーのため公室に帰り、パンダ舎近くでの動物交換を記念植樹を友好の翼の団員と共に、後、パンダを観せてもらいました。広い運動場には木が繁り、若い個体が木にのぼったりして愛敬をふりまっています。堀も浅く簡単に人が入れそうな感じ。他、寢室に2頭いました。となりに同じくレッサーパンダがいて、それは10mもあるかと思われる高い木の上であそんでいて実に自然らしい感じがします。私はチンパンジーのことも気になるし、まだ半分位しか観ていないのでゆっくりしたかったのですが、日程の都合上、再び訪れる約束をして園を去りました。園の人の話では西郊公園で鳥をみればもうほとんどみた様なものだと話で、鳥類の飼育技術やコレクションの自信がうかがわれました。帰りのバスからは大介、十月のための現在建築中のレンガ作りの新居がみえました。面積は900㎡もあるそうです。出口付近で丁度毛布や洗面具などをもって大介、十月の所に向うあのおぼさんに逢い、手をふってお願いをして別れました。上海市各地で観迎をうけ人民公社、病院、小年宮等を訪問し、27日の午後に私達2名は再び西郊公園に行き、前回みていない所を観て私は大介、十月との最後の別れをして来ました。その日も時間が限られているため、私は彼らとの時間を多くしたいため、園内はかけ足で回りました。パンダはあいにく、もう寢室の中のため獅虎山へ。ここは文字通りトラとライオンの広い放飼場でトラは東北トラです。大型の哺乳類にも珍

しいものも多く、ヤク、ターキン、四不像、それにあの有名な雲南象。これはアジア象の一種で中国の雲南省に生息し、横からみると体形が四角をしているのが特徴です。この附近はすべて動物舎も広く、又、動物舎間の間も広く、観て廻るのは大変です。最後に猿舎に行ったのですが、あいにくまだ外に出していない様で姿もみえませんし、私は橋本課長らよりも大分早く走って来たのでまだ通訳の人もいず、どうすることもできず中をのぞきこんだりしていたところ、中から若い女の人のがでて来て私の名札をみて手招いてくれました。中からはあのおぼさんが飛び出して来て、早速部屋の中へ入れてくれました。こうなれば私達には言葉はいりません。大介は私をみるなりとびついてきて、十月も私が常とちがう服を着ているので少しこわがっていたのですが、中国の人の作業服を借り呼んでやると安心したのか抱かれてきました。写真をとりたいために運動場に出してもらい、日本にいた時と同じ様に2頭はたわむれ始めました。私にしても中国に来てからの緊張の毎日でありましたし、彼らにしてもさぞかし不安であったにちがひありません。私のネクタイをひっぱったり、体をたたいたり、お互に大喜びです。くすぐってやると大声で笑い、気がつくとは黒山の人だかりでした。係の人とはこまかい話はできませんでしたが、十分に気持は含んでいただけたと思ひ、私も心置きなく上海を去ることができました。

北京動物園は訪中最後の日に訪れ、ここは天安門などのある北京市の中心から北西に車で20分位の所で、上海に比べると都会の動物園と言えます。この日も時間はなく園の人から簡単な説明をうけ、又3年前に北京動物園から送られた丹頂とモウコガゼルが共に繁殖に成功していることを伝え、早速見学させてもらいました。北京動物園は総面積55万㎡で上海ほど広くはありませんが300種、2000点ですから、種類数はかなり多い様です。

ここも入口附近に中国珍貴動物を紹介する美しい絵で画いたカンバンがあります。獅虎山にはトラが3種いて、どれもがりっぱな広い寢室と運動場をも

っており、東北トラ、華南トラがいます。丁度、東北トラは外にでていたため、体の大きな特徴がよく判りました。もちろんライオン等もおります。園の中央に水禽の池があり、島々には丹頂が数十羽もいまして、猛禽舎には珍らしいのが種類多いです。黒ひげわし、黄ひげわし等です。北京動物園は、もちろん中国特産の動物も沢山いるのですが、さすがに首都らしく、各国との交換動物も多くいます。

ジャコウ牛、ホワイトオリックス等もその内です。園内は改造工事中でどんどん近代化されています。野生のロバ、野生のラクダ、野牛などもあります。もちろんターキンもいました。金魚を観せているのも中国の特色でしょう。チンパンジー舎は近代的な建物です。ここに多摩から送られた湧子が出て、りっぱに成長していました。私達は北京放送よりチンパンジーの事、特に今度連れて来たチンパンジーについてのインタビューを受け、彼らがきっと成長し子供が生まれ、ますます日中友好に役立つにちがいないと語って来ました。

海牛館にはメキシコからおそらくパンダのお礼として贈られたとおもわれるマナティーがいます。同じ所には飼育200年といわれているゾウガメがいました。あらためてみるとさすがに甲の盛上りに年令

を感じさせます。

ハ虫館は新たに大きめのものを建築中でした。とうとう時間が来てしまい、ひきかえし、最後にパンダをみました。ここには6頭います。運動場は成獣用と幼獣用があり、特に幼獣用の所は可愛い遊具があります。あいにく昼寝の最中で外にはでていませんでしたが、でていれば素晴らしい写真がとれたと思います。残念ながらここでも全部観ることはできませんでした。

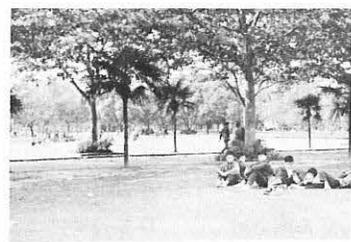
最後に中国の動物園の印象ですが、中国は広く、又珍らしい動物は想像以上です。北京動物園はこの改造工事完了後にはきっと世界的な動物園になるに違いありません。西郊公園は大介、十月の思い出と共に私には忘れることができないでしょう。広大な敷地には動物舎が周りの樹木にとけこんで、決して目立たず、又中国特産の動物を飼う方針も日本にはこの様な動物園が少いため、余計に考えさせられました。

最後に、今度の訪中でお世話になった中国人民それに動物園関係者に感謝し、大介、十月の成長を心から願い、いつの日か再会を夢みて筆をおきます。

(飼育課)



西郊公園正門



広場



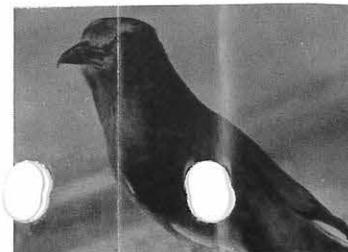
中国産動物の分布図



ノガンの一種



シロカケイ



ヤイロチョウ



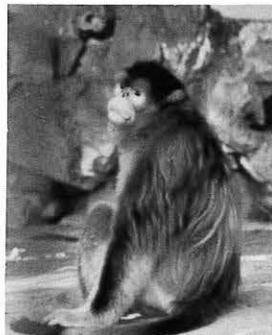
ターキン



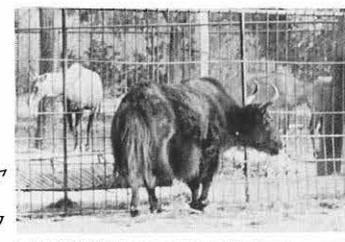
コウノトリ



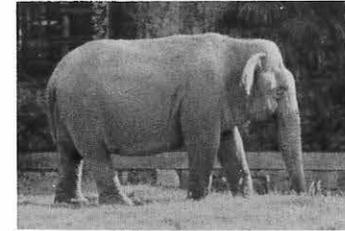
上海動物園の人と共に



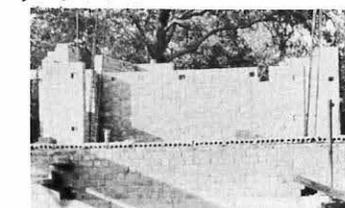
キンシコウ



ヤク



ウナンゾウ



建築中のチンパンジー舎



ジャイアントパンダ



チンパンジーを抱いた筆者

上海西郊公園園内図



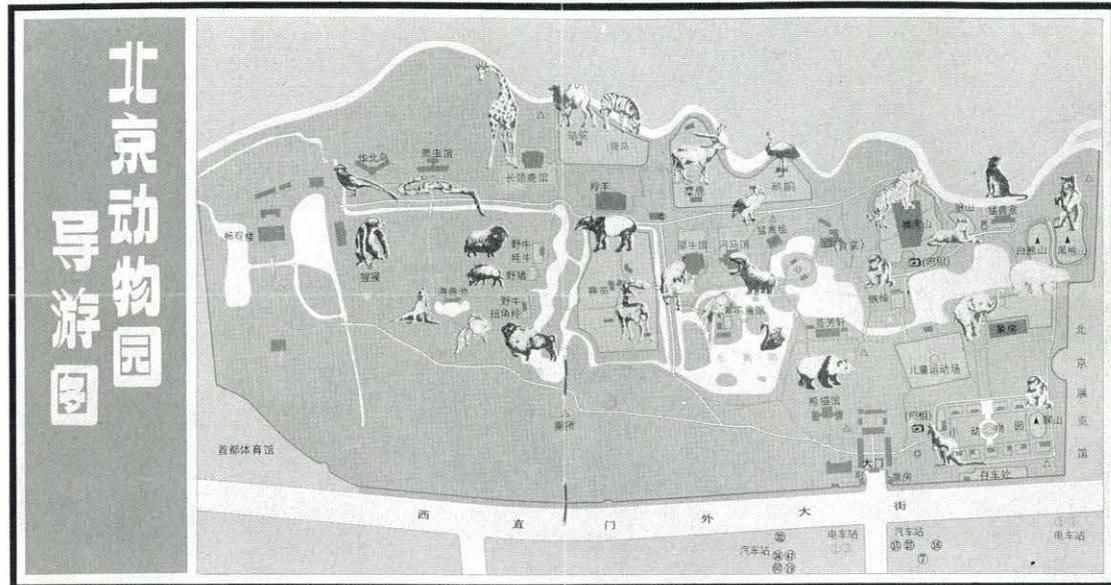
上海西郊公園

つて北
北トラ
判りま
園の中
もいま
黒ひじ
ちろん
に首都
ジャ
園内は
野生の
ちろん
も中国
建物て
っぱに
パンシ
ついて
子供か
いと詠
海牛
して贈
じ所に
した。

西郊公

中

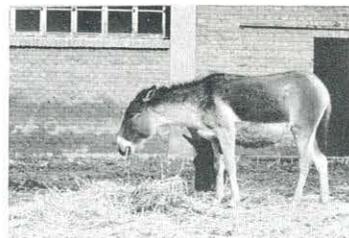
北京動物園園内図



北京動物園 正門



東北トラ



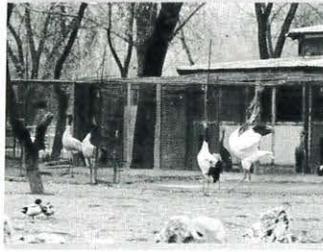
アジアノロバ



動物説明札



学名札



タンチョウ(右)と
オグロヅル(左)

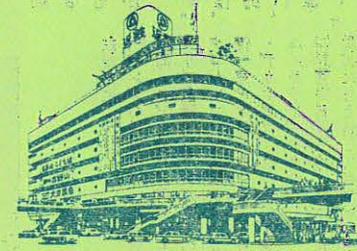


パンダの放飼場

夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



上本町店 (06) 779-1231



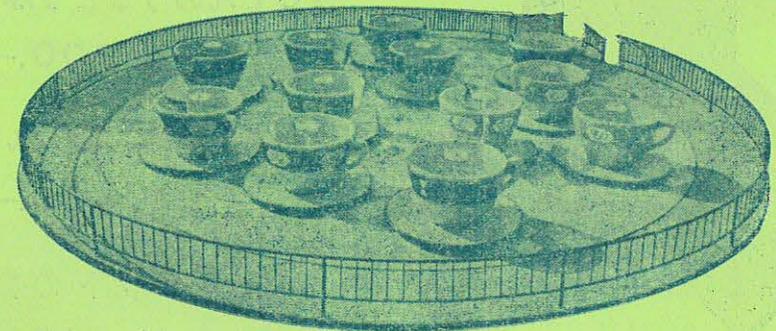
アベノ店 (06) 624-1111



奈良店 (0742) 33-1111

近鉄百貨店

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

これは日本近海で繁殖して、晩秋にオーストラリア付近へ渡りをするのですが、その途中で衰弱して保護されるもので、11月6日に1羽保護されたのを始めとして11月末現在で6羽の保護があります。

☆天王寺動物園ボランティア会報の発行

昨年、今年とサマースクールでボランティアの方々にいろいろお手伝いをいただきましたが、その後毎月の定例会、幹事会などを開催し、11月16日に会報の第1号を発行しました。

現在会員は約50名おり、今後いろいろな面で動物園に奉仕していただくことになりそうです。又、

11月16日には会報の第1号を発行しました。

会報の名称は大阪Zooボランティアズをちぎめて「おおずぼら」という名称です。ボランティアに参加御希望の方は事務局(TEL 771-8402)までお問い合わせ下さい。



☆地下道改修工事のお知らせ

今までの南北連絡地下道は階段式であったため、入園者の皆様にいろいろご不便をかけておりましたが、このたびスロープにするための改修工事を行うことになりました。

工事期間中は南門を閉鎖するなど、大変ご迷惑をおかけいたしますが、皆様のご理解とご協力をお願いします。



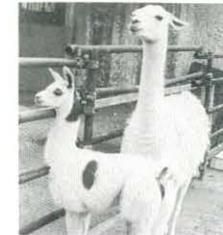
なお、完成は昭和53年3月中旬の予定です。

休園日のお知らせ

毎月第3月曜日は休園日です。来年3月までの休園日は下記の通りです。
12月19日、1月17日(火)、2月20日、3月20日
年末年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。開園時間は9時半から4時半までで、4時に切符売止めになります。

☆ラマの出産

11月3日、ラマが1頭(メス)生まれました。昨年生まれた子は全身ほとんど白色でしたが、今回の赤ちゃんは茶色の斑が3ヶ所ほどあり、父親似といった感じです。



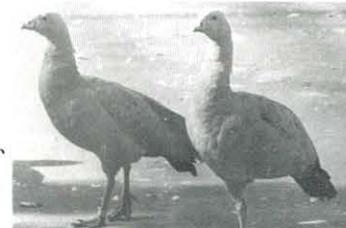
母親は昨年は初産だったせいか、子をうまく育てず途中で人工哺育しましたが今回は2度目のお産のせいか、じょうずに育てています。

☆マレーグマ誕生

11月9日、マレーグマの寝室で鳴き声が聞こえ、係員が注意深く観察したところ、1頭の赤ちゃんが生まれているのが確認されました。母親が胸にしっかりと抱きしめているため、詳しく見ることはできませんが、順調に育っているようです。マレーグマの出産は今年8月に上野動物園でも例があり、それに続くおめでたです。

☆新着動物

10月14日、ロウバシガンが1つがい入りました。このガンはオーストラリア地方に分布する鳥で、国際保護動物にも



指定されている貴重な鳥です。11月14日にはムツアシガメ2頭、セダカガメ10頭、コクチョウ3羽が新たに入りました。

☆寄付動物

10月6日、秋田市大森山動物園からヤマドリ1つがい、アナグマ1頭の寄贈がありました。又、10月26日、宇部市常盤遊園よりボンネットザル1頭の寄贈を受けました。

その他、珍しいフクロウの一種のオオフクロウ2羽の寄付がありました。

☆オオミズナギ

ドリの保護

例年通り、今年も冬の訪れと共にオオミズナギドリが保護されて当園で収容されています。



中川志郎著
動物園の季節



四六判 212ページ 写真31
●定価1200円

黒柳徹子II動物園には、人間と動物を区別して人達は働いていない。みんな動物の側に立って、ものを考え、動物を愛し、まだがかっていないことを理解しようとする時間も惜しい人達ばかりです。特に、この本の著者の中川さんは、いつも野生の動物を懐にとじこめておくことを、うしろめたく思い、字の書けない動物にかわって、本を書くのです。(世界野生生物基金・理事)

主要目次
(一)パンダの愛と結婚/森の魔術師ボンゴ/可愛い悪魔・コビトカバ/群れにもどったアカゲザル・マリノ皇帝ペンギン/落日のアメリカバイソン/クロシロコロボス誕生/ハゴモツルとヒナノ愛/一家・オランウータン/奇獣バク(猿)/カバ・デカオ/ゴリラの別れ/老雄チンパンジー・ピルノキリン・タカオ
(二)飼育係三世代/動物と飼育係/中江川さんII動物たちと過して半世紀/ぞうからの鎮魂曲/陽謀君を悼む/動物園と私たち

梅谷敏二著 ¥1200 ●虫の博物誌
文明のなかの六本脚
ダーウィン著 荒川秀俊訳 ¥1700
ビッグル号世界周航記
堀正一著(群馬大学教授) ¥880
謎の巨鳥モア

羽田健三(信州大学教授)監修 各¥850
野鳥の生活正統
鳥海衷(東北大学教授)著 ¥1600
海岸動物の生態と観察
スウイントン著 小島都生訳 ¥1900
恐竜その発生と絶滅

築地書館 TEL 03-5622-3731 都営浅草線11902

☆この3冊の本は、北園の天王寺動物園協会でお求めになれます。



○てんのうじどうぶつえん

¥200.-

○鳥の飼い方

¥400.-

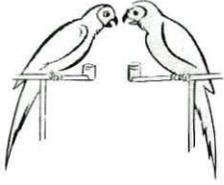
○犬とペットの飼い方

¥400.-

— お問い合わせは —

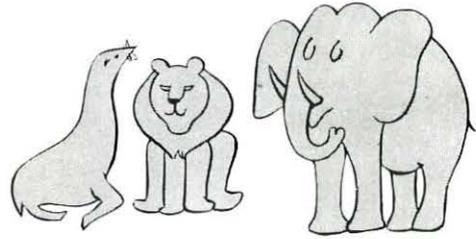
大阪市天王寺動物園協会 (☎ 771-0201) まで

なきごえ 昭和52年12月15日発行(毎月1回15日発行) 第13巻第12号(通巻148号)
 編集／大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区玉水町2
 発行人／大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201
 印刷所／株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 振替口座 大阪 37823
 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨグール

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明